

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	25	看護展開論Ⅱ
2年	53	領域横断看護実習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-02				
	●	●								
科目名	看護展開論Ⅱ				単位認定者	遠藤 美穂子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	46 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	23 回			
授業の概要	ヘルスアセスメント(データベース聴取、面接・問診技術、観察・測定・記録技術)、フィジカルアセスメントの基本的技術(視診・触診・打診・聴診)、各系統別の構造と機能(外皮系・感覚器・筋骨格系・神経系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・生殖器系・乳房)にもとづくアセスメントの視点や方法、成長発達(母性・小児・老年)に伴う特有なアセスメントの視点と方法を学び、看護実践に必要な臨床判断能力と人の全体(身体・精神・社会的)の査定に必要な基礎的知識とを身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの定義・目的について説明できる 系統的アセスメント(身体的・心理社会的)の視点・方法が説明できる ヘルスアセスメントに必要な基本的技術の方法が説明できる 各系統別でのフィジカルアセスメントの視点と方法が説明でき、必要な基本的技術をモデル人形へ実施できる 成長発達に伴う特有なアセスメントの視点や方法が説明できる 									
学修者への期待等	1年次に履修している「人体構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」は、ヘルスアセスメントの基礎となります。復習して、知識を積み重ねていきましょう。また、指示された準備学修を行い、講義・演習に主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】ヘルスアセスメントとは 定義・目的と意義 身体の部位、方向と位置				【事後】 提示された課題に回答して臨む(30分)			二口 尚美		
2	フィジカルイグザミネーションにおける手の使い方 胸部の場所の探し方、腹部と臓器の位置				【事後】 授業内で記載した課題を整理する(30分) ABクラスに分けて実施			二口 尚美 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子		
3	ヘルスアセスメントに必要な基本的技術 視診、触診、打診、聴診、意識、身体計測 反転授業				【事前】 予習動画視聴(30分程度) 【事後】 第3回講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
4	系統別フィジカルアセスメント① 外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
5	系統別フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
6	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房 反転授業				【事前】 予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】 講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
7	系統別フィジカルアセスメントの実技① 視診、触診、打診、聴診、意識、外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系				ABクラスに分けて実施 【事前】 ワークシートを学修して臨む(1時間程度) 【事後】 ワークシートの記入			遠藤 美穂子 佐藤 理恵 二口 尚美		
8	系統別フィジカルアセスメントの実技② 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房							遠藤 美穂子 佐藤 理恵 二口 尚美		
9	事例を用いたフィジカルアセスメント グループワーク				【事後】 ワークシートの記入			遠藤 美穂子		
10	【講義】高齢者のヘルスアセスメント				【事前】 教科書〈老年看護学①〉p.221～241を予習して臨む(1時間程度) 【事後】 授業後：学びの提出(約10分)			桑田恵美子		
11	高齢者のヘルスアセスメントの実際① (フィールドワーク・グループワーク)				【事後】 ワークシートを記入、まとめ			桑田恵美子		
12	高齢者のヘルスアセスメントの実際 (パワーポイントの作成・プレゼンテーション発表)の実際②				【事後課題】 高齢者のヘルスアセスメントの実際で分かったことを課題に沿ってまとめる(2時間程度)			桑田恵美子		
13	【講義】子どものアセスメント① 子どもに特徴的なアセスメントの視点				【事前】 教科書〈小児看護学[1]〉p.284～302を予習して臨む(1時間程度)			岡崎 草代夏		

回	授業計画	準備学修	担当名
14	【講義】子どものアセスメント② アセスメントに必要な技術	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉 p 303～343を予習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏
15	子どものアセスメントの実際① 子どものバイタルサイン測定	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートに取り組み事前 学習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
16	子どものアセスメントの実際② 子どもの身体計測	【事後】15回、16回の演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
17	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法① 妊娠・分娩期	【事前】正常な妊娠・分娩経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
18	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法② 産褥・新生児期	【事前】正常な産褥経過・早期新生児期経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
19	母性看護におけるアセスメントの実際① 妊娠・分娩期	ABクラスに分けて実施 【事後】演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
20	母性看護におけるアセスメントの実際② 産褥期・新生児期		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
21	事例を用いたヘルスアセスメント① フィジカルアセスメントの実技	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートを学修して臨む 【事後】ワークシートの記入	遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原—尚美 二口 尚美
22	事例を用いたヘルスアセスメント② ヘルスアセスメントの実技・グループワーク		遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原—尚美 二口 尚美
23	事例を用いたヘルスアセスメント③ 学びの統合 グループワーク	【事後】演習の学びを整理し、レポートを作成する（1時間程度）	遠藤 美穂子
教科書	『看護学テキストNice 基礎看護技術』香春知永他著、南江堂 『ナースンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他著、メディカ出版 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/小児看護学総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院		
参考文献	『ナースング・スキル』エルゼビア・ジャパン株式会社 『ナースングチャンネル』株式会社京都科学 『高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美他著、MCメディカ出版 『日常生活における高齢者のヘルスアセスメント』educational-video-online 丸善出版株式会社 *その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する。		
備考	*準備学習の予習動画視聴は、ナースング・スキル、ナースングチャンネル等の動画コンテンツを含みます。 *準備学習のワークシートは使用時に配布し、事前・事後課題への取組みと提出はその都度、指示をします。 *授業内課題は、提出物（レポート、ワークシート、学び、振り返り等）で評価し、適宜フィードバックします。 *12回目高齢者のヘルスアセスメント【Educational Video Online URL】を視聴しながら授業をします。		

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を活かし、看護展開の基礎となるヘルスアセスメントについて、身体的側面、心理的側面、社会的側面など多角的・専門的な視点から学生に伝える。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-05			
		●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	岡崎 優子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間
							授業回数		集中
授業の概要	慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる看護過程の展開と役割を学び、領域を横断する看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	基礎看護学や成人看護学概論・成人看護学援助論Ⅰ、老年看護学概論・老年看護学援助論Ⅰでの学修をもとに、実習目的を意識して臨んでほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年8月19日（月）～9月21日（土） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台厚生病院、仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、東北医科薬科大学若林病院、宮城県立がんセンター</p> <p>III. 実習目的：慢性的な健康問題や治療によりストレス・危機状況にある患者・家族に対し、既習内容を統合した看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題を持つ患者の看護過程が展開できる 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる <p>V. 実習計画：実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断看護実習オリエンテーション 2) 慢性的な健康問題にある患者の看護過程の展開と、必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、レポートにまとめることで実習での学びと自己の課題を明らかにする。 									
教科書	『看護データブック』新井治子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に指示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀、阿部春美 非常勤講師 三井尚美、竹田理恵、佐藤理恵、佐藤由記子、佐藤清湖、佐々木重徳、加藤真理子 大石慶子、松田郷子、江口美知子、佐々木ゆみ子、佐藤千佳								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の臨床経験を持つ教員が担当する。慢性的な健康問題を持つ人と療養生活を支える人たちに真摯に向き合い、健康とは何か、看護とは何か、さまざまな角度から考えられるように教授する。